

世界の人とふれあいタイム

「2つの国：ウガンダとコートジボアールの話」



ウガンダ



コートジボアール

平成 25年 2月 10日実施

今回のゲストはウガンダ、ナンサナ出身で、早稲田大学国際教養学部3年生のマトヴ・ジョセフさんです。

「ウガンダはアフリカの東、赤道直下ですが、暑い国ではなく一年中暖かく、とても過ごしやすいです。」と話されました。アフリカ最大のビクトリア湖が有名で、首都はカンパラです。112の郡に56部族があり、公用語は主に英語とウガンダ語です。「人をもてなす精神(ホスピタリティ)を大切にしていることは、日本と通じる」ものがあるそうです。

国旗の色は黒が黒人、黄がアフリカの夜明けの光、赤が民族愛をそれぞれ表しています。中央に国鳥のホオジロカンムリツルが描かれています。

人口は3,500万人。平均寿命は男性52.4歳、女性54.5歳と短いです。レンガの家、牧畜、肥沃な土地での特産のフルーツが豊富で青いバナナを使った、日常食のマトケ料理などを映像で説明されました。燃料に炭は欠かせないとのことです。



1964年にイギリスから独立したウガンダは、9年に亘るアミン大統領の政権後、内乱・無血クーデタを経て、ムセベニ大統領の政権が続いています。「最近、石油が採れることがわかり、銅、コバルト、鉄鉱石、石灰岩などの資源ビジネスに国が発展すると思う」と、プレゼンを締めくくりました。



将来の大きな夢を語るマトヴさん

コートジボワール、アクボヴィル出身のコネ・イソフさんは小・中・高で英語の教師の傍ら、プライベートスクールでフランス語とアラビア語も教えています。

国の名前は英語ではアイヴォリーコースト(Ivory Coast)、かつてこの地方の海岸で象牙が多く取引されていたことが、象牙海岸の名前の由来だそうです。現在は、フランス語表記のコートジボワール(Côte d'Ivoire)で呼ぶように国が要請しているそうです。

国旗のオレンジ色はサバンナ：豊かな台地、白は平和を、そして緑は森林であり、希望を意味しています。国章は象。公用語はフランス語で、各部族語も使われています。1960年にフランスの植民地から独立し、首都はヤムスコロに移転されましたが、実質的首都機能はアビジャンが果たしているそうです。



サバンナの動物：象、ワニ、水牛、ライオン、錦蛇が有名で、チョコレートの原材料であるカカオの生産量は世界一です。カフェ、樫の木もアメリカやヨーロッパへ輸出されていて、天然資源はダイヤモンド、金、マンガン、石油、ガスが豊富です。民族はマリンケ族が約55%を占め、伝統宗教は60%になります。

Q&Aでは、「教育制度について」の質問に、ウガンダは3才から幼稚園に行き、小学校は7年、中学は4年、高校は2年、大学は3年～5年です。英語は幼稚園から学んでいます。マトブさん自身の小学校の思い出は「何度も先生に怒られて、学校が嫌いだったが、友達に会うために学校へ行った。」とのことです。

コートジボアールは、中学は3年、高校は4年、大学は4年です。大学卒業は30%ぐらい。中学卒業後に就職する人が多いそうです。

「日本で学んだエネルギーを将来アフリカのために役立てるのか？」の質問に、マトブさんは「アフリカのために日本に来ました。将来の夢はウガンダの大統領になりたい」と答え、大きな拍手が起きました。



民族衣装のコネさん

コネさんはバゼン(3枚重ねの服)とツグラという帽子の民族衣装を披露してくれました。

ウガンダでは炭の使用量が多いため、木の伐採や二酸化炭素の問題があり、環境のためにも木を1本切ったら、1本植えるように奨励しているそうです。

今回は初めての試みでアフリカの2つの国のゲスト・スピーカーをお招きしました。参加者からはとても好評でした。「ガーナの話」の時のゲストスピーカーだった、ムサさんも民族衣装で駆けつけてくれ、場の雰囲気盛り上げてくれました。

世界の人とふれあいタイム委員長 生山 龍哉
... ガストのメッセージ ...

●マトブさん
「スタディツアーで訪れていたタイから、今朝、日本に戻ったばかりです。」と話され、準備していたアフリカのドラム演奏や、民芸品を紹介することはできず残念です。

●コネさん
「アラビア語や教育学の修士、英語教育の博士号を取得。その資格を活かして、八王子で活動できる機会を持ちたい」と語っていました。

※次回：2013年4月21日(日)13:30～15:30は「ペルーの話」です。ご都合のつく方、ぜひ、国際協会へお出かけ下さい。